

藤田地区での取り組み

平成28年2月、藤井に住む西山昭二郎さん（90）との出会いから地域づくりが始まりました。

昭二郎さんは「要介護1」という認定を受けましたが、特に介護保険サービスを使わず、今までと変わらない生活を送っていました。しかし、次第に認知症が進行し、妻アサエさん（86）の介護に対する負担が大きくなりはじめ、「地域の人に夫が認知症であることを知ってもらいたい」と担当ケアマネジャーに相談しました。

その後、地域の女性たちに集まってもらい、認知症のことを話したことにより「他人事じゃないよね」と言ってくれました。「今度西山さんの家に遊びに行くよ」と地域の人たちが家に来てくれるようになり、昭二郎さんは生活リズムと笑顔を取り戻しました。

この集まったことがきっかけで、5年前から活動が途絶えていた住民同士の交流の場「むつみ会」が復活しました。

また、北吉田地区で「ごぼう軽井沢の会」、藤井地区で「ふじたカフェ」等の取り組みも始まり、気軽に立ち寄れる居場所が次々と生まれています。



▲地域のつながりで笑顔を取り戻した西山さん夫妻

受賞を振り返って

御坊市では、今回の受賞を契機に、今後も「誰もが総活躍の1人となり、安心・安全なまちごぼう」を目指して地域づくりに取り組んでまいります。

これからも市民の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

「ごぼう本人サミット」開催

認知症になっても、安心して暮らせる地域づくりを本人たちの声をもとに考え、本人同士で自分たちのペースで話し合える場を作ろうと平成28年度から実施しています。

今年も本人10名と家族や支援者で40名を超える参加者となり、遠くは東京や大阪からの参加者もあり、本人同士の出会いの場となり「元気をもらった」「新しい仲間ができてよかった」等の声が聞かれました。

